

農地転用問題での 県方針を撤回 市町村の実情ふまると知事が表明

昨年、県から一方的に発表された「農地転用の厳格化方針」。これにより県民・県内市町村との間に混乱が広がっていました。12月・2月県議会では合計6名の県議が再考を求めて質問。これを受けて知事は県方針を白紙撤回すると表明しました。

松坂県議は質問の中で、日本共産党はこれまでも乱開発から農地を守るとともに、自給率を上げ農業で食べてゆける農政を求めてきたという立場を示しつつ、今回の県方針は「農業と農地を守る」ということではなく、都市部への対策が直接の動機となっていると指摘しました。中心市街地活性化対策と、道路・上下水道・公共交通など行政コスト縮減を目的として、「農地転用による土地の供給を止めたりい」という発想なのです。



▲湯浅町港の雇用促進住宅



▲津波避難ビルに指定されています

雇用促進住宅の譲渡・廃止問題 自治体での活用再検討を

全国の雇用促進住宅

が2021年までに譲渡・廃止されます。県内16市町にある23住宅では、すでに3住宅が

家が建てられなくなり、若者が流出してしまったと市町村や県民からの意見に対し、「転用できる地域を市町村が計画指定すれば解決できる」と答えてきたことについても、都市計画は充分な議論と住

民合意のもとにすすめるべきであり、知事が言うように簡単ではないと指摘。中山間地を多くかかる和歌山県では、農地と住宅が混在し、農業振興と土地利用の折り合いをつけながら県と市町村がすこめてきた経過をふまえ、県による一方的な進め方ではなく、県議会や市町村・関係者・県民の声に聞く耳をもち、力を合わせて方向性をさぐるよう求めました。

質問の最後に松坂県議は、知事は市町村と話し合った。質問の最後に松坂県議は、知事は市町村と相談・協力しながらすすめることとなりました。



▲県議会一般質問で迫る松坂県議と、答弁に立つ仁坂県知事(3月4日)

こうした議会からの度重なる強い意見をうけ、知事は3月9日の本会議で県方針の白紙撤回を表明。今後の対策や法律運用については、県内市町村と相談・協力しながらすすめることとなりました。

自治体に譲渡され、6住宅が民間に売却されました。湯浅町港の住宅も含め14住宅が民間への譲渡にむけ入札が予定されています。

松坂県議は「この住宅がなくなつたらどこへ行けばいいのか」などと高齢化がすすむ入居者の不安の声を紹介。自治体が引き受けた住宅では定住促進・人口減対策として活用・入居がすすんでいたことを示し、国の交付金などを活用して、交

県は取得の意向がないとしましたが、「市町村に老朽化した公営住宅の住み替え用としての活用なども含め検討するよう働きかけを進めている」「退去者の県営住宅への優先入居手続きを進めている」と答え



県会議員
松坂ひできの
東奔西走!



●有田川町消防出初式
(明恵の里スポーツ公園 1月10日)



●共産党県議団で知事に新年度予算要望
(1月14日)



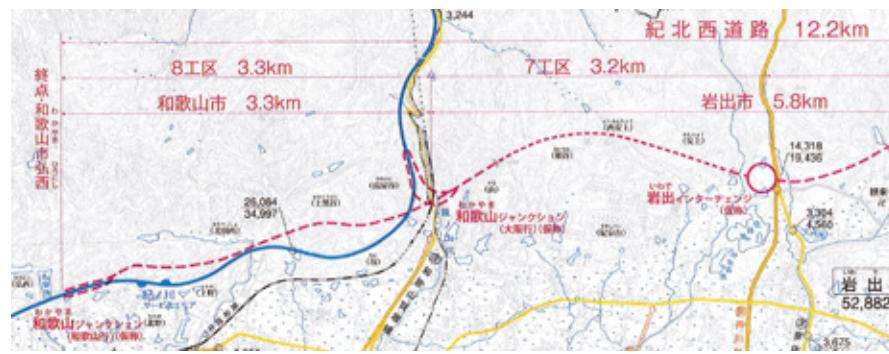
●特別委員会で二川ダム調査 (1月26日)



●「きび森の保育所」竣工式で記念植樹
(3月24日)



●紀州湯浅のシロウオまつり(島之内商店街
3月13日)



▲京奈和道路 和歌山ジャンクション付近地図 国道交通省パンフより

「京奈和道が阪和道とつながると便利になるね。早く完成してほしいよ」という声とともに、「紀の川サービスエリアのあたり、いくつも大きな橋を作っているけど、なぜみんなに大げさな工事になるの?」という問い合わせもいたとあります。どちらももともなご意見です。松坂県議は、会12月県議会・2月県議会の建設委員会で、京奈和道和歌山ジャンクション工事の設計や工

京奈和道 和歌山ジャンクション工事

ずいぶん高くなっています

谷間に横切る背の高い橋が林立する工事現場。中には高さ100メートルの橋げたもあります。高速道路会社の説明では、こうした大規模工事となる理由

は、阪和道のカーブがあり松坂県議は、このジャンクション設計が京奈和道を阪和道になげるだけでなく、本線が立体交差してさらに西へ進む構造になつたと指摘。ムダな公

共事業として凍結された「紀淡連絡道」の復活をねらう、必要以上に複雑で大規模・高額な工事になつているのではと批判しました。このジャンクション工事が含まれる京奈和道「紀北西道路」(紀の川IC)和歌山JC

は約1100億円と割高になっています。県予算からも毎年の工事費の約2割が負担金として国に支払われており、今年も約58億円が

計上されています。皆さんにはこのジャンクション工事、どのようにご覧になつていますか?早く完成させてほしいけど、ムダづかは困りますよね。

に流入・流出するポイントがとりにくいためのことでした。しかし松坂県議は、このジャンクション設計が京奈和道を阪和道になげるだけなく、本線が立体交差してさら急で勾配もきつく、安全に流入・流出するポ

新年度予算の特徴

2月県議会には172議案が上程され、松坂県議と共産党県議団は当初予算案など19議案に反対し、153議案に賛成しました。当初予算案の特徴的な前進面や問題点をご紹介します。

県民の願いが前進しました

- 第3子からの保育料無料化を拡大
- 「子ども食堂」に県が支援
- 大学進学者への給付型奨学金が実現
- 保育士・介護士・産科医への返済免除付貸付金を創設
- バイオマス発電立地に支援

問題点を指摘しました

- 和歌山下津港南防波堤や日高港泊地整備などのムダな公共事業予算
- 紀淡連絡ルート促進
- 消費税増税しても福祉・医療は充実せず
- 定数内講師へらし、教員定数改善を